

探究・校務改革  
支援補助金  
2025

令和6年度補正予算  
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

# 効果報告レポート

【事業者名】

株式会社 アバンテクニカ

【サービス名称】

AI Evaluator

【サービスの支援項目】

カテゴリ2-1 教職員の業務効率化・省力化 メインサービス

2026年1月

# AI Evaluator

エバリュエーター

## 1. サービスの概要、特徴

### (1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

本サービスは、英語のスピーキングおよびライティングについて、AIが自動で評価・フィードバックを行う学習支援サービスです。

解答後すぐに評価結果を確認できるため、児童生徒は自分の理解度や改善点を把握しやすくなり、教職員は評価・採点にかかる負担を軽減できます。

問題の作成・出題、児童生徒による解答、評価結果の確認、学習状況の把握まで、すべてブラウザ上で行える点が、従来の添削型サービスとの主な違いです。

### (2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

児童生徒は、発話や記述に対する心理的な負担が軽減され、自分のペースで取り組むことができます。

教職員は、AIによる評価支援により作業時間の削減や評価のばらつきの抑制が期待でき、学習結果を日々の指導に活用しやすくなります。

### (3) サービスの活用場面

- ・授業内におけるスピーキング・ライティングのテストや小テストでの評価
- ・家庭学習や宿題として実施する理解度確認・到達度の把握
- ・定期試験前や入試・検定対策における到達度確認や評価の補助

### (4) 1サービスあたりの標準販売価格

1年間無制限で3980円(税別)/1名。標準テキストは980円(税別)

※インターネット接続にかかる通信費や、学校側で利用する端末等の準備費用は含まれていません。

## 2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

サービス導入時には、初期設定や基本的な操作方法について資料提供およびメールで案内します。

運用開始後も、操作方法に関する問い合わせや不具合への対応を専用窓口で行い、学校の要望に応じて活用方法の相談にも対応します。

英語の発話・記述に対する心理的ハードルや個人差、ならびに教職員の評価・準備負担といった課題に対し、AI Evaluatorは即時かつ客観的な評価と個別反復学習を通じて、学習環境と授業運営の改善を支援します。

### 児童生徒・教職員が抱える課題

#### 児童・生徒

- ・英語の発話・発音への心理的ハードルが高い
- ・発音や間違いを気にし、発話や表現に消極的になりやすい
- ・個々の理解度や学習ペースに差がある
- ・繰り返し練習や個別に取り組む機会を確保しにくい

#### 教職員

- ・スピーキング・ライティングの評価・採点負担が大きい
- ・評価が教員の判断に依存しやすく、客観性を保ちにくい
- ・教材作成、模範例提示、事前準備の負担が大きい
- ・学習成果や進捗を客観的に把握しにくい

### サービスが果たす役割

#### 児童・生徒の視点

- ・AIによる評価により、発話や表現への心理的負担を軽減する
- ・失敗を前提とした反復練習を可能にする
- ・個々のペースで取り組める学習環境を提供する
- ・自身の理解度や改善点をその場で把握できるようにする

#### 教職員の視点

- ・スピーキング・ライティングの評価・採点業務を支援する
- ・評価の客観性を担保し、指導のばらつきを抑える
- ・教材準備や事前作業の負担を軽減する
- ・学習状況を可視化し、指導や声かけに活用できるようにする

# ■探究・校務改革支援補助金における活用場面

## サービスの活用風景・授業の流れ

これまでは英語の発話や表現に対して児童生徒が抵抗感を持ちやすいことや、教職員が評価や準備に負担を感じていることが課題であったが、授業の終盤や単元の区切りなど、学習内容の理解度を確認する場面において、QuickFireやライティング機能を用い、児童生徒が英語を話したり書いたりする場面を設けた。

児童生徒は各自の端末を用いて取り組み、結果をその場で確認することで、発音や表現を見直しながら繰り返し取り組むことができた。教職員は結果を確認し、必要に応じて助言や声かけを行うことで、指導に活かすことができ、発話や表現への心理的なハードルの低下や、教職員の負担軽減につながった。

### サービスの流れ(一例)

### 日本語を 英語に変換して解答!

問題が自動で次々に出題

制限時間内に英語に変換して話す

### AI がその場で評価+フィードバック!

- 解答後すぐに「評価+フィードバック」を表示
- 「間違い→理解→改善」のサイクルで自然に力がつく
- 採点は数秒で完了、教師の評価負担を大幅軽減

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	4	学校等教育機関数	4校
--------	---	----------	----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	関東学園	関東学園大学附属高等学校	群馬	高等学校	1,2,3年	英語教育効率化、支援
2	静岡県教育委員会	静岡県立富士宮東高等学校	静岡	高等学校	1,2年	英語教育効率化、支援
3	高知県教育委員会	高知県立山田特別支援学校	高知	特別支援学校(高)	1,2,3年	英語教育効率化、支援
4	屋久島町教育委員会	屋久島町立岳南中学校	鹿児島	中学校	1,2,3年	英語教育効率化、支援

# 【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

## 定量的効果検証

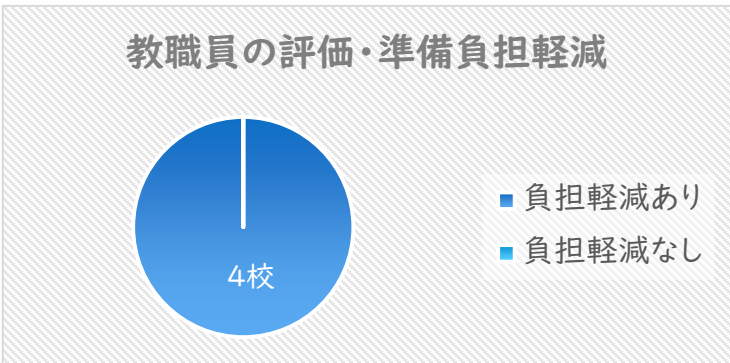
### ① 教職員の評価・準備負担軽減

#### 課題

スピーキング・ライティングの評価や教材準備に教職員の負担がかかっていた。

#### アンケート結果

3校において、評価・採点や準備にかかる負担が軽減されたとの回答があった。  
1校では評価目的では利用していないが、準備負担軽減につながったとの回答があった。



#### 考察

多くの学校で教職員の業務負担軽減が認識されており、本サービスが校務効率化に寄与していることが示唆される。

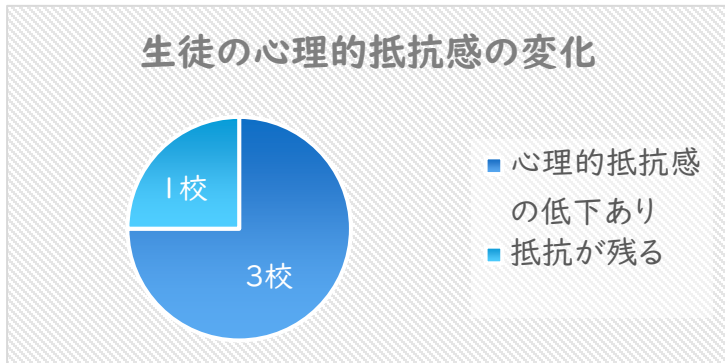
### ② 生徒の心理的抵抗感の変化

#### 課題

英語の発話や表現に対する心理的ハードルが高い生徒がいた。

#### アンケート結果

苦手意識の低下や、取り組みやすさの向上、繰り返し挑戦する姿勢が見られたとの回答があった。  
一方で、発話に対する抵抗が残るとの意見もあった。



#### 考察

多くの学校で発話・表現への参加が促進される傾向が見られ、心理的ハードルの低減に一定の効果があったと考えられる。

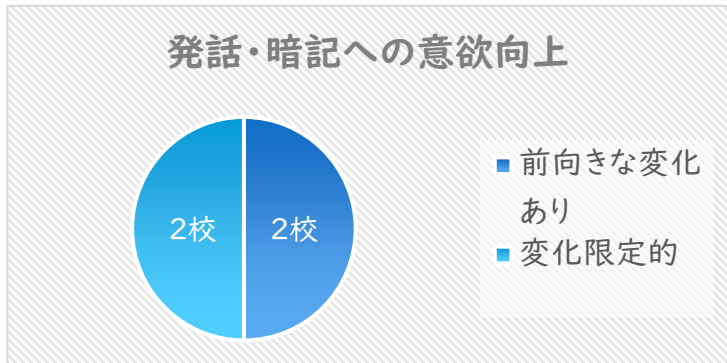
### ③ 発話・暗記への意欲向上

#### 課題

英語を声に出して使う機会や、暗記への主体的な取り組みが十分でない場合があった。

#### アンケート結果

フレーズを覚えて使えるようになった生徒が見られたとの回答や、  
英文を声に出して覚えようとする意欲の向上が報告された。



#### 考察

半数の学校で発話や暗記に関する意欲向上が確認され、英語表現を主体的に扱おうとする姿勢の形成につながった可能性が示唆される。

## 定性的効果検証

### 調査概要（母数）

- ・対象：AI Evaluator導入校（A校～D校）
- ・方法：教職員へのアンケート・ヒアリング
- ・回答数：4校（教職員4名）

### 児童・生徒への影響（考察）

アンケートでは、**4校中3校**で、英語の発話や表現に対する心理的な抵抗感の低下や、間違いを恐れずに繰り返し取り組もうとする姿勢が見られたとの回答があった。  
また、**一部の学校では**、フレーズを覚えて使えるようになった生徒が見られ、**別の学校では**、英文を声に出して覚えようとする意欲の高まりが確認された。  
これらのことから、本サービスの活用により、英語表現に対する心理的ハードルが下がり、児童生徒が自分のペースで主体的に取り組みやすい学習環境が形成されたと考えられる。

### 教職員への影響（考察）

教職員へのアンケートでは、**4校中3校**で、採点や評価準備、教材準備にかかる負担が軽減されたとの回答が得られた。  
また、評価業務の省力化により、結果を踏まえた助言や声かけなど、指導そのものに充てる時間を確保しやすくなったとの意見が複数見られた。  
さらに、授業で扱っている英文をそのまま活用できる点について、授業との接続がしやすいとの評価が得られている。

### 総合的な考察（まとめ）

アンケート結果から、AI Evaluatorの活用により、児童生徒においては英語表現への心理的な抵抗感の低下や学習意欲の向上が見られ、教職員においては評価・準備にかかる負担軽減と、指導に充てる時間の確保につながったことが確認された。  
これらのことから、本サービスは学習面と校務面の双方において、教育活動の質の向上に寄与していると考えられる。

## ■ 探究・校務改革支援サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

### 児童・生徒の声

人の目を気にせず、自分のペースで英語に取り組めた。

失敗しても何度でもやり直せるので、英語を話すことへの抵抗が少なくなった。

発音だけでなく、英語を声に出して使ってみようという気持ちが高まった。

また使いたい、もっと英語を話してみたいと感じた。

### 教職員の声

・採点を行う必要がなくなり、業務の負担が軽減された。

・事前の教材準備や教員自身の練習にかかる労力が減った。

・結果を見ながら、助言や声かけに時間を使えるようになった。

・授業で扱っている英文をそのまま使える点がよかった。

・特別支援学校では英語を専門としない教員が指導にあたることも多いが、本サービスを用いることで、評価や進め方に迷うことなく授業を行うことができ、その点が教職員から好意的に受け止められた。

本事業を通じて、導入初期の理解共有や一斉利用時の運用、評価の受け止め方など、事業者として対応すべき課題が明らかになった。

これらの課題に対し、導入支援や運用上の選択肢を提示することで、学校の状況に応じた柔軟な活用を支援していく。

## 直面した課題

### 1. 導入時の課題

学校ごとにICT環境や端末の種類、ネットワーク状況が異なり、導入初期に操作方法や利用イメージが十分に共有できない場合があった。

また、教職員がサービスの全体像を把握する前に一部機能のみを試用するケースも見られ、活用の幅が限定されることがあった。

### 2. 実施していく中での課題

授業内で一斉に利用する場合、学校のネットワーク環境によっては処理に時間を要する場面があった。

また、模範解答と異なる表現について、評価結果が分かりにくいと感じる場面があった。

### 3. 実施した結果、新たに顕在化した課題

学校や学習者の特性によって、制限時間や評価の厳しさが心理的負担となる場合があることが分かった。

特に特別支援教育の文脈では、制限時間や評価を固定せず、事前練習や反復を重視するなど、学習者の状況に応じた運用が必要となる場面があった。

## 解決するための改善策

### 1. 導入時の課題

導入時に、授業内での具体的な活用場面や利用の流れを示した簡易マニュアルを提供し、学校の状況に応じた導入支援を行う。

あわせて、事前にICT環境を確認し、運用上の注意点を共有することで、導入時の不安軽減を図る。

### 2. 実施していく中での課題

一斉利用時の運用方法や、人数・時間帯を考慮した利用方法を提示し、あわせてシステムの改善を行うことで一斉利用による耐性を向上させる。

課題の難易度や求める表現の水準を段階的に設定することで、評価の意図が伝わりやすくなるよう運用を工夫する。

### 3. 実施した結果、新たに顕在化した課題

制限時間や評価設定について、学校や学習者の状況に応じた調整を可能にし、運用上の選択肢を提示する。

## ■会社概要

社名	株式会社アバンテクニカ
代表	鷲峯一臣
設立年月	2007年10月
本社	福岡市西区
資本金等	1000万円
売上高等	売上:約9500万円 経常利益:約150万円
従業員数	11人
事業内容	システム開発全般 Webサービスの運営

## ■お問い合わせ窓口

担当:鷲峯 一臣

電話:092-206-0505

Mail:washi@avantecnica.jp